

福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた取組に関する国際原子力機関 (IAEA) 派遣団レビュー(第5回)の報告書とりまとめについて

- 国際原子力機関 (IAEA) 派遣団による第5回レビューミッション (2021年6月30日～8月27日) の報告書が、本日(2021年8月27日)、IAEAおよび政府(経済産業省)より公表されました。
報告書 (経済産業省ホームページ)
U R L ; <https://www.meti.go.jp/press/2021/08/20210827004/20210827004.html>
- 福島第一原子力発電所における廃炉に向けた取組に関するIAEA派遣団レビューは、これまで計4回 (2013年(2回), 2015年, 2018年) 受け入れております。
- この度公表された報告書では、廃炉・汚染水対策が前回ミッション (2018年) から良好に進捗していることが評価されているほか、**26項目**の良好事例(acknowledgement)と**23項目**の助言(advisory point)が記載されています。
- IAEAからの報告・助言については、国からの指導を踏まえ、廃炉に向けた取組の中に適切に反映してまいります。



IAEA派遣団によるレビューミッション (2021年8月)

報告書の主なポイント

	概要
汚染水・処理水対策	<ul style="list-style-type: none">■ 既存の汚染水量を管理し、対策を講じることにより、発生量の減少を達成するための努力の継続を評価■ 将来発生するALPS処理水の推定と海洋への放出の予測スケジュールを含めた水量推移の分析を奨励
使用済燃料・燃料デブリ取り出し	<ul style="list-style-type: none">■ 使用済燃料の取り出しに関する段階的なアプローチ（低リスク→高リスク）及び、3号機使用済燃料取り出しの知見の1・2号機の取り出しへの活用を評価■ 取り扱い困難な損傷燃料を取り出すための技術やアプローチの検討を継続するよう提言■ 燃料デブリ取り出しへの取り組みを評価する一方で、今後の見込まれる処理に重点を置き、燃料デブリの包括的な特性評価を行い、初期貯蔵から処分に至るまでの将来の戦略設計の重要性を強調
放射性廃棄物管理	<ul style="list-style-type: none">■ 汚染水処理に伴う二次廃棄物の管理のための技術的アプローチ及び2032年までの廃棄物管理計画を評価■ 今後更なる廃棄物が発生する可能性があるため、追加的な保管場所を特定すること及び廃棄物パッケージのトレーサビリティと特性評価をさらに強化することを奨励
地域共生・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">■ 現地企業との関わりと現地サプライチェーンの発展を支援するためのプログラムや地方自治体とともに積極的に取り組んでいる姿勢を評価